



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 30

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 30. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 30: 63-66

ISSUE DATE:

1955-03-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186849>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No. 30

1955. 2月 (3月3日)

録 事

冬も終り、南紀も梅のかおりと共に、しだいに春めいてきた。

今月はあまり報告するような事項もないが、昨年に比して観光客も多く、2月の入場者数は1月とほとんど変わらない。今年から国鉄の周遊券制度が復活し、また大阪から白浜まで直通する白浜急行バスが2月10日から開始されたので、これらを利用する観光客もしたいに多くなってゆくことだろう。

昨年秋から工事にかかっていた番所昇灯台も、いよいよ2月11日から点灯され、15日に竣工式が官民合同の下に挙行された。ひきつづいて博物館構上において同祝宴が催された。本灯台は閃白光を、毎3秒に1閃する8500烛光の無導灯台であつて、番所昇に観光の上からも異彩を加えたこととなる。

前監事水野虎久三氏の離任に伴ない、新たに京都大学理学部事務長の私につかれた伊駒正教氏に、各委員の了解の下に、このたび後任監事を委嘱することとなった。尚水野氏よりは本会に対しさき深甚なる謝状を寄せられた。

昭和29年度もあとひと月で終ることとなるが、宮地会長は4月にローマで開催される臨海実験所会議に出席される予定である。従つて次の委員会では会長の都合によつては、3月中に行われるかも知れないので、この奥あらかじめ各役員の御了解を願つておきます。

## 業 務 概 況

### ◎ 2月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	相分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	1766	52191	11870	116910	16636	169101
小 人	98	4393	45	2363	143	6756
団 体	552	68686	—	—	5052	68686
合 計	916	125270	11915	119273	21831	244543
無料入場者					16	1318

### ◎ 2月の収入

		(累 計)
観覧券売上金	419,080	4,432,622
雑 収 入	135	21,707
1月よりの繰越	615,414	
計	1,034,629	

### ◎ 2月の支出

一般経費

費 目 別	金 額	累 計	備 考
人 件 費	43,525	616,684	
光 熱 費	27,693	141,153	
消耗品費	2340	50,323	
備 品 費	300	29,230	
修 理 費	5,930	78,725	
資 料 費	10,990	178,880	
厚生費	2,228	29,348	
借入掛料費	—	—	
諸社公費	—	3,851	
雑 費	130	14,890	
通信運搬費	1,733	17,962	
研 究 費	—	20,000	
放 置 費	—	13,200	
合 計	94,869	1,182,346	

水族館改善費

項 目	金 額	累 計	備 考
合 計	—	314,724	

実験所費

費 目 別	金 額	累 計	備 考
合 計	—	1,104,520	

## 博物館費

費目別	金額	累計	備 考
人件費	4300	46985	
消耗品費	—	176	
修理費	—	6330	
備品費	—	22765	
旅費	—	460	✓
合 計	4300	76710	

## 積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備 考
バス・アツ資金	9100		118300	
賞金	9100		17428	
厚生	1500		8722	
災害時予備金	65		630921	賞金5000円入る
合計費積立金	—		20865	
積立基金	69846		738752	
合 計	89611		1634988	

## 支出合計

		(累 計)
一般経費	94869	1182346
水族館改善費	—	314724
実験所費	—	1104520
博物館費	4300	76710
積立金	89611	1008969
計	188780	3687269

2月末現在高 ..... 345,849.  
 支出累計 ..... 3,687,269.

## ◎ 前年度との比較

	1954	1955	増 減
入場者数	17819	21831	+ 4012
売上金	340,395	419,089	+ 78,685
支出金	345,514	188,780	- 156,734

## 水族館記事

- ◎ この冬は水槽の保温がうまくいったせい、比較的魚の死亡が少なかった。その反面イセエビの類はあまり採れないらしい。
- ◎ 待望のタカアシガニは今年は昨年よりちよっとおくれ22日1匹、26日1匹3匹南群町堀の浜本氏より入手し、現在2匹が生存している。
- ◎ アオブダイが3日に死亡した。これは昨年の8月28日に僅か50円で購入したものだが、5月17日間も生存して、よくその役目を果してくれた功績は大きい。
- ◎ これに代って1貫5600枚もある巨大なカンダイ(俗にコブダイ、式はモブシとい

う)がノ匹、NO. 24の水槽に入った。

◎ 屋外の亀プールに飼ってあるアカウミガメのノ匹が21日死亡。この死体を引上げるのに昨年作った起重機が始めて用いられた。

◎ ニシキエビノ匹9日死亡。折柄滞在中の川口西郎教授に岡山大学臨海実験所の標本として寄贈した。

◎ 13日ウチワエビが14匹入槽 (NO. 18)。

◎ 現在各水槽中には底曳にかかった大量のフニガキやオオバナサング (*Trachyphyllia geoffroyi*)、シロガヤ、海綿等が沢山入って、魚槽の美しい背景をなしている。

## 資 料

◎ 2月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(20)	7	7	6
気 温 (C)	$\frac{8.8}{10.8} - \frac{12.5}{10.8}$	$\frac{9.5}{9.9} - \frac{12.0}{9.9}$	$\frac{5.3}{10.8} - \frac{14.8}{10.8}$
水 温 (C)	$\frac{13.2}{13.8} - \frac{14.4}{13.8}$	$\frac{12.3}{13.3} - \frac{14.4}{13.3}$	$\frac{11.8}{13.2} - \frac{14.5}{13.2}$
比 重	$\frac{26.0}{26.1} - \frac{26.3}{26.1}$	$\frac{25.6}{26.0} - \frac{26.3}{26.0}$	$\frac{25.4}{25.7} - \frac{26.0}{25.7}$

但し { 気温は南水槽  
水温 } はNO. 25水槽 で10時に測定  
比重 }

## 来 訪 録

岩波写真文庫「白 浜」の取材のための来県中の岩波映画製作所の犬伏英之氏は7日水族館で約20種の魚類生写真を撮影された。

昭和30年3月3日発行 (No. 30)

編集兼  
発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会

和歌山県 白浜町

瀬戸臨海実験所内

(電話白浜515)